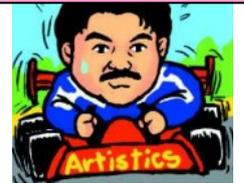


アーティストックス通信

No12
「会社見学に行く」号



面白法人カヤックに学ぶ

先日、「面白法人カヤック」という会社を見学してきました。同じコンピュータ関係なので同業者といえども、酒屋とスナックくらい違います（そんなに違わないか・・・）。名前の通りとてもおもしろい会社でした。

先日、「面白法人カヤック」という会社を見つけて、仕事を受注したり、アイデア丸ごと買い取ってくれたりということとで商売をしています。

一言で言うと、ネット小僧（失礼！）が楽しみながら、そのまま会社を大きくしてきた、そんな感じですが、仕事を徹底的に楽しんでしまおうという感じですね。それをただ単に楽しくとかいうレベルではなく、くだらないことを大まじめにつきつめて、突き抜けるまでこだわっているという感じですね。そうすると、その一見くだらなく見えるアイデア（真面目なモノもた

どんなことをやっているかという一例は、「ゆれつくす」という商品に垣間見れます。これは、パソコンに接続する外部装置で、その人の脚に装着し、その人のクリエイティブビート（通称ビンボーゆすり）を記録・解析し、固有振動数や総振動数をカウンタ。インターネット経由で、全世界の使用（ユスリート）がどれだけゆすっているかを記録・共有するというもの。また、ノリノリの時のクリエイティブビート（つまりビンボーゆすり）を再現することができ、仕事に集中したい時には、その最高だった時のビートに合わせることで、最高の自分を引き出すことができる。という、あまりに

くだらなさすぎて、感心してしまうというものです。そのほかにも、たくさん役に立ちそうもないサービスをしています。

この会社は非常に自由な雰囲気です。オフィスは、真中に畳のスペースをみんなが囲む独特なレイアウト。アイデアも、まったく型にはめない、独創的なものが多いです。役に立つのかどうか、微妙なものが多かったけど・・・。



結果が出なくても、自分だけの責任にはならない。

社員の多くは自由を求めます。でも、自由というのは責任（義務）と一体になっているということを、つい忘れてしまいがちです。逆にいえば、会社としてがっちり管理するということは、この結果に対するこだわりを削ぐことにつながりかねません。自由によって結果を出す（利益を出す）というのは、とても成熟した組織（人）とプロ意識が必要です。ある意味、不安定な経営でもありますが、チャレンジし甲斐のある経営でもあります。しかし、カヤック、魅力的でした。

8月イベント・活動予定

- 1 (出) 2 (日) 静岡掃除に学ぶ会 年次大会
藤枝市立青島中学校
- 8 (出) ミルカミルカライブ 富士下川成
- 16 (日) ミルカミルカライブ 三島夏祭り
三ピカパウ
- 19 (水) 三島市倫理法人会にて講演開催
『インターネットを活用した見込み顧客開拓のポイント』オプ
ザーバー参加可
- 20 (木) 沼津建設的な生き方を学ぶ会 原
沼津経営塾 沼津文化センター
- 22 (土) EBMまつり 1周年記念講演
- 23 (日) Eそうじの会 1周年記念大会
- 27 (木) 28 (金) 経営戦略セミナー

閃考会議室
会議でブレインストーミングをする時、マイクにキーワードをしゃべると、それに関連する情報をインターネットから検索して、会議テーブルに映し出すというもの。慶応大学との産学協同で生まれたそうです。これ、欲しい!! カヤック本社にあります。



逆にいえば、管理されているというのにはある意味、とても楽なことだと思います。管理通りにやってみて、それほど怒られることもないし、

この通信は、長岡または当社員がご縁をいただいた方にお送りしています。通信不要、送り先が違えば、バックナンバー読みたいなどございましたら、下記までご連絡ください。

急激かつ予測不能な

変化の時代にあっては

基本的なトレンドにのった

戦略をもつてしても

成功が保証されるわけではない

しかし、

それなくしては失敗が確実である

——— P. F. ドラッカー ———

ピーター・ドラッカー (Peter Ferdinand Drucker、1909年11月19日-2005年11月11日) はオーストリア生まれの経営学者・社会学者。なお、著書『すでに起った未来』(原題「The Ecological Vision」)では、みずからを、生物環境を研究する自然生態学者とは異なり、人間によってつくられた人間環境に関心を持つ「社会生態学者」と規定している。ペンントン大学、ニューヨーク大学教授を経て、2003年まで、カリフォルニア州クレアモント大学院教授を歴任。「現代経営学」、あるいは「マネジメン ト」(management)の発明者と呼ばれる。

ドラッカーの著書の日本での売り上げはダイヤモンド社刊行分だけで累計400万部余り

(フリー百科事典ウィキペディアより、抜粋引用)